

## グラントワに寄せて

島根県芸術文化センター 副センター長

若槻 真治

皆さんこんにちは。

4月からグラントワでお世話になっていきます。しばらくご厄介になりますが、今後ともよろしく願います。

益田に転勤するまでは県庁で文化国際課長を務めていました。文化国際課は、島根県立美術館、島根県民会館とともにグラントワ（芸術文化センター）とも密接にかかわっていますから、「異動した」という気がしません。そのまま松江から益田に来たという感じですが。もともとグラントワの建設当時も、県庁で文化振興課（建設翌年に文化振興課と国際課が合併して文化国際課になりました）に勤務していましたから、グラントワがどんな感じか、どんな様子か、大魔神（わかりますか？）みたいな建物だなあ」と思いながら見てきました。オープン式典の時は、グラントワ前の県道で入館者の車を誘

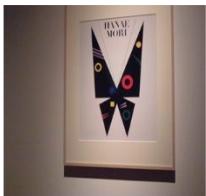
導していました。皆様方の何人かにはその時にもお会いしていると思います。10年前ですね。早いものです。

この10年の間、グラントワは、小規模なものから大規模なものまで、ぬくもりや美や刺激に満ちた様々な物語を、あるいは底知れない深さを持った伝統や、やりきれない現実の矛盾や、一瞬の輝きを感じさせる物語を、万華鏡のような世界をつまみ、簡単に言えば皆さんの感動を発信してきたと思います。これはすごいことです。グラントワのお客様は老若男女様々ですし、半数は県外で、しかも全体の来館者数が安定しているのが特徴ですが、その多様性や広域性や継続性も、グラントワ入館者が持ち帰ってくださる感動がいかに多様で大きいか、そして

それがいかに次につながっているかを示しているのではないのでしょうか。

感動がそれぞれの人の「理解」の幅を広げ、「意欲」を生み、「想像力」を育て、いつしかその方の身体そのものに浸みこむこと。そしてそれが地域を動かす力になること。文化の価値はまさにそこにあるような気がします。そうしてみると、ホールと美術館の両方を持ったグラントワは最適な施設ですね。まだまだいろいろなことができそうな気がします。

このグラントワを支えてください



っているのが「応援団」の皆さんだと、多くの方からそう聞かされてきました。澄川センター長からも。そして私もそう思っています。「応援団」にもいろいろな分野があるのですね（花、ありがとうございます）。これからはぜひよろしく願います。私の単身赴任生活も快適そのものです。グラントワは10年たっても素晴らしい建物ですし、益田には見どころも多く、温泉もあるし、萩や津和野にも近いし、いうことなしですね。先日は奥匹見峡、表匹見峡、裏匹見峡と歩きましたが素晴らしいかったです。機会があれば、皆さん一緒に遊びましょう。

平成17年10月8日に開館したグラントワも早や10周年を迎えました。記念の催事が沢山アップされていますが、芸術の秋にクラシック音楽の二日間はいかがでしょう。主な演奏曲目をご紹介します。

【N響メンバーによる

アンサンブルコンサート】

10月10日(土) 14:00開演

「音楽の祝祭」と銘打たれた1日目はNHK交響楽団の弦楽器メンバーによる演奏です。

◎ モーツァルト

「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」

交響曲や室内楽曲などのクラシックの全ジャンルのなかでモーツァルトを最も特徴づける三つを選ぶとすると、①『ピアノ協奏曲』②『オペラ』③『セレナー

ド』や『ディベルテイメント』などの機会(冠婚葬祭や晩餐等の行事のため作曲された)音楽だと思えます。「小さな夜

曲」と名付けられたこの曲は最後の13番目のセレナーデです。いわば貴族のため

に作られた気品ある趣きを持つ一方、肩の凝らない娯楽音楽なのですが、注文主

など作品成立の事情はわかっています。極めて流麗な旋律で最も愛されている人気曲のひとつで、モーツァルト自身の作曲目録では5楽章とありますが、メヌエット楽章がひとつ失われ、4楽章が演奏されます。

◎ ヴィヴァルディ「四季」

バロック期の名作「四季」は協奏曲

集「和声と創意の試み」の一部として、それぞれ3楽章制の春・夏・秋・冬の標題をもつ4曲のヴァイオリン協奏曲から成っています。また、楽譜に書かれたヨーロッパ抒情詩の一形式であるソネットの印象をもとに作曲され、

季節それぞれの親しみやすい曲想をもちクラシック音楽のなかでもよく知られた人気曲となっています。

【県民参加「第九コンサート」】

10月11日(日) 15:30開演

◎ ベートーヴェン 交響曲第九番 前述と同様にベートーヴェンを最も特徴づける三つを選べば、それは①『ピアノ・ソナタ』②『弦楽四重奏曲』そ

して③『交響曲』ですね。既に5番「運命」6番「田園」発表の頃には着想さ

れていた、第4楽章にシラーの詩による合唱を伴うこの曲はバッハの「マタイ受難曲」とともに人類最高の音楽遺産と例えられたりもします。グラントワ大ホールで再び聴くことができる「第九」。喜びと感動のひとつとなりますように。

【あ と が き】にかえて

大下藤次郎の

なつかしい

さわやかな風景画

明治時代を代表する水彩画家

大下藤次郎の作品が展示されています。六月二十九日までは「旅とスツケツチ」、後半の七月一日からは「山紫水明を描く」と題してその美しい水彩画などを見ることができ

ます。百五十点に及ぶ絵画と日記など多くの作品を当美術館では所蔵(コレクション)と聞いています。

大下藤次郎は国内各地を旅して景勝地の風景画を得意としたようです。またオーストラリアなどへの

船旅を経験しました。

水彩画としては大変繊細で明るいタッチで描かれています。また明治時代の自然、家並み、生活の一部を作品を通じて知ることができます。ほのぼのと、さわやかな気分になりました。訪ねたことのある広島「縮景園」羽田空港近くの「穴守稲荷」宍道湖の風景など大変なつかしく思いました。

情報発信ボランティア

飯塚哲也

